

福島工場のアルミ樹脂 複合板加工ライン稼働

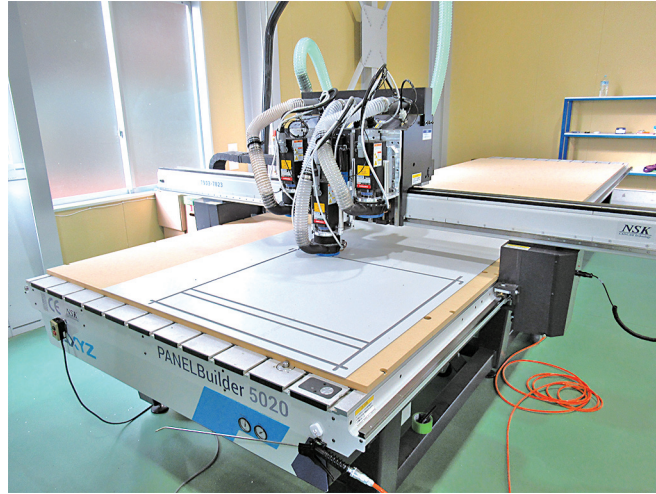
組立まで一貫体制構築

パンチングメタルメーカー、ウチヌキ（本社・神奈川県綾瀬市、社長・中尾健太郎氏）

の福島工場（福島県西白河郡中島村）の新工場（F棟）が1月から稼働を開始した。アルミ樹脂複合板の加工専用ラインを新設。パンチング工程から各種パネル・鋼板加工、さらには仕上げ工程となる組み立て作業までをワンストップで対応できる体制を整えた。

福島工場の隣地（土地面積約1850平方メートル）を2年前に取得し、新工場棟（建屋面積540平方メートル）を昨年11月に竣工。12月に溝入

加工機（ルーター）と入し、今年1月から稼働を始めた。工機などの新設備を導溝入加工機は各種鋼



溝入れ、切断などさまざまな鋼板加工に対応するルーター

板やパネルを切削工具（ドリル）で加工する機械で、直線的な溝入れ・切断加工だけでなく、文字や数字など曲線状や複雑な形状の加工にも対応できる。サイズは最大幅1800ミリ×6ミリまで対応できるため、大型の看板や標識板の加工も可能だ。

切断・穴あけ加工機は最長6メートルの長さの母材に対応し、主にパネルや鋼板の骨組み材や枠材を加工する。穴あけは楕円形の有孔加工もできる。また組立・仕上げ工程では、細かなバリ取りや調整作業を施した上で、治具を使ったパネル・鋼板の曲げ加工やリベット止めなど締結作業を行い、最終製品の組み立てまでを一貫する。

中尾社長は「溝入れ加工機を導入したことで、ほとんどの鋼板加工を自社で対応できることとなった。主力の

パンチング加工だけではなく、最終製品までの組み立て、ワンストップで対応できる体制が整ったことで、加工ニーズや納期などのユーザーの要望に

「いきいたい」と話す。アルミ樹脂複合板は芯材の樹脂を板厚の薄いアルミ板で挟んだ複合板材。軽量性や平滑性、加工性などの特性があり、内外装用の建



1月から稼働したアルミ樹脂複合板加工の新工場

材や看板、什器や産業資材、土木資材など幅広い用途で使用されている。芯材の樹脂を挟んだステンレス複合材の加工引き合も既に出ている。（中尾社長）としている。

